

VI 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

■ 開催概要

- ◆ 日時 : 平成26年2月8日(土) 10:00~18:00
- ◆ 場所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数 : 受講者38名、JICA5名、NIED5名、オブザーバー1名、合計49名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第4回のねらい

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修ふりかえり/実践の共有」 10:06-12:30

1. 主催者あいさつ/スタッフの紹介/第4回のねらいの確認 10:06-[13]

- ◇ 司会あいさつの後、JICAの新旧スタッフがあいさつする。
- ◇ レジュメを基に第4回のねらいの説明をファシリテーターが行う。

2. アイスブレイキング「仲間探し・仲間壊し」など 10:19-[23]

- ◇ 実践報告フォーラムでも使う名札を各自作る。
- ◇ ファシリテーターが出すお題に対して仲間だと思う人同士で集まる。どのように分かれたか確認する。お題:「居住県」「所属(学校種など)」「小学校の時好きだった科目」。
- ◇ 名札に小さく書いてある数字で集まり同じ席に座る。
- ◇ 「8月の第3回研修から今日までにあった印象的な出来事」についてグループで伝え合う。



3. 第1回~第3回研修のふりかえり 10:42-[26]

- ◇ 第1回~第3回研修の記録概要を各自読んで、各回に行ったことをふりかえる。
- ◇ 「研修で最も印象に残っていること」と「研修参加を通じた自分自身の変化」をA4用紙に各自書き出し、グループで紹介し合う。

4. 実践の共有 11:08-[68]

- ◇ グループメンバーの実践報告シートを各自読み、それぞれの実践の「ここいいね & ここをもっと聞きたい」をピックアップしその実践者に伝え、実践者はそれに重点的に答える形で実践内容の報告をし合う。1人10分間ずつ。



5. 開発教育・国際理解教育の実践によるより良い変化 12:16-[19]+13:35-[15]

- ◇ 実践を通じた成果・よい影響(自分/学習者/周囲:同僚・地域)をグループで対比表にまとめる。
→成果1参照(実践によるより良い変化)

- 休憩 - 12:35-[60]

- ◇ 全体でギャラリー方式により共有し、その際良いアイデア3つに☆を付ける。全体で2人が感じたことを発表する。

● セッション2 「実践報告フォーラムのための準備」 13:50-16:30

1. 実践報告フォーラム 2013 の進め方と受講者の動きの説明 13:50-[33]

- ◇ 実践報告シートのテーマごとに事務局が設定したA～Fのワークショップ提供チームに分かれる。
- ◇ 配付資料「実践報告フォーラム 2014 の進め方について」と昨年度の写真（パワーポイント）を基に、フォーラム当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明する。

2. チームづくりと体験ワークショップ 60 分の進め方の説明 14:23-[8]

- ◇ フォーラム午後の実践体験ワークショップのうちA～Cチームは「気づく」を主題に、D～Fチームは「築く（行動する）」を主題にしてワークショップを組み立てる旨ファシリテーターが説明する。
- ◇ 実践体験ワークショップの60分間の基本的な使い方、当日予想される状況について以下のとおり説明する。
 - ① プログラムのうち「アイスブレイキング」「メイン」「ふりかえり」という一連の流れの中で、一部のアクティビティを参加型で提供する。実際に体験しない部分は口頭説明で補足する。
 - ② 各ワークショップの参加者は36～48人で、5～6人グループで6～8グループできる。

チーム	テーマ	アクティビティ
A	多様性	多様な意見の受け入れと実践
B	貧困	貧困の課題の気づき
C	環境	環境の課題の気づき
D	生き方	世界とは何か、共に生きる
E	進路	進路とは何か、世界へ出る
F	しあわせ	しあわせとは何か、世界へ出る

3. チームメンバーの実践内容の共有 14:31-[38]

- ◇ チームメンバーの実践をチーム内で伝え合い、その後質疑応答を行う。

4. ワークショップのねらいの設定 15:09-[13]

- ◇ チームメンバーの実践を基本に、ワークショップ参加者にどんな気づきを持って帰ってほしいかを派生的なブレインストーミングで書き出し、提供するワークショップのねらいの方向性をチームで定める。

→ **成果2** 参照（ブレインストーミング模造紙の例）

5. プログラムづくり 15:22-[90]

- ◇ ねらいを実現するワークショッププログラムをチームで検討し、指定の項目（テーマ、メンバー氏名、タイトル、ねらい、プログラムの流れ、ポイント）について模造紙にまとめる。
- ◇ 予定しているアイスブレイキングを全体で発表し重複がないかを確認する。

- 休憩 - 16:52-[8]



● セッション3 「実践報告フォーラムのための調整」 17:00-18:00

1. 各チーム作成のプログラムの共有 17:00-[21]

- ◇ 各チームのワークショッププログラムの概要を全体で2分間ずつ発表し、内容を共有する。→ **成果2** 参照（作成したプログラム模造紙の例）

2. フォーラムでの役割などの最終調整 17:21-[39]

- ◇ ワークショップにおける役割をチームで決め、事務局に用意してほしい必要備品を用紙に書き出す。
- ◇ 代表者のじゃんけんで海外研修発表順を決める。
- ◇ フォーラムの最後にあいさつをする研修受講者代表者を自薦・他薦で選出する。
- ◇ グローバル教育コンクール受賞者2名をファシリテーターが紹介する。

3. 事務連絡 18:00-[2]

- ◇ 明日の実践報告フォーラムの開場時間、集合時間などの周知を事務局が行う。



★ 18:02 終了

■ 主な成果物

● 成果1：開発教育・国際理解教育の実践によるより良い変化

自分にとって

- ◇やってみないと（行動しないと）わからない、伝えられないということに気づいた！
- ◇伝え方を学べた
- ◇様々な手法を学ぶことで、ロジカルな考え方を学ぶことができた
- ◇伝えるために、改めて自分自身が学ぶ視野を持った
- ◇視野が広がる
- ◇人脈が広がる
- ◇参加型の手法をたくさん知ることができた
- ◇参加者が話してくれるので自分で話さなくて良かった
- ◇自分の思いと同じ人に出会える
- ◇やっていることに自信が持てた
- ◇子どもの意外な一面に気付く
- ◇子どもの反応で授業を組み立てられるようになった。→楽しい！
- ◇こんな私でもチャレンジできますよーと子ども達に見せられた
- ◇フィードバックの大切さがわかる
- ◇学習者の変化を感じることができる
- ◇共に学べる
- ◇楽しい時間が持てる
- ◇参加者の良い所を発見
- ◇参加型の学習方法のスキルが身についた。
- ◇聞くことの大切さを知った
- ◇自分を見つめ直すことができた
- ◇モチベーションUP
- ◇いろんな意見を知ることができた
- ◇教え方（学び方）の幅が広がった

対象者（参加者／学習者など）にとって

- ◇行動できた
- ◇日本は恵まれていることに気づけた。
- ◇視野が広がる
- ◇行動を変えることができる→フェアトレード商品の購入など
- ◇自分の良い所に気付いた
- ◇違いを肯定的に受け止められるようになる
- ◇楽しんでくれた
- ◇年齢の違いに関係なく話し合える
- ◇自分の思い、考えを話す事に積極的になった
- ◇自分にとって大切なことを深く考える
- ◇ぼんやりした進路がはっきりした
- ◇学習者→実践者に
- ◇他者、外国への興味を増してもらえた
- ◇問題を自分のこととして使える
- ◇意識が変わる
- ◇お互いに肯定できるように
- ◇意外な能力、才能の発見！
- ◇皆が意見を出せる！
- ◇聞くこと、学ぶことの楽しさを知る
- ◇活動の輪が広がる
- ◇自分の生き方を見つめ直す
- ◇理解がより深まる
- ◇学習者同士のつながり↑

周囲にとって

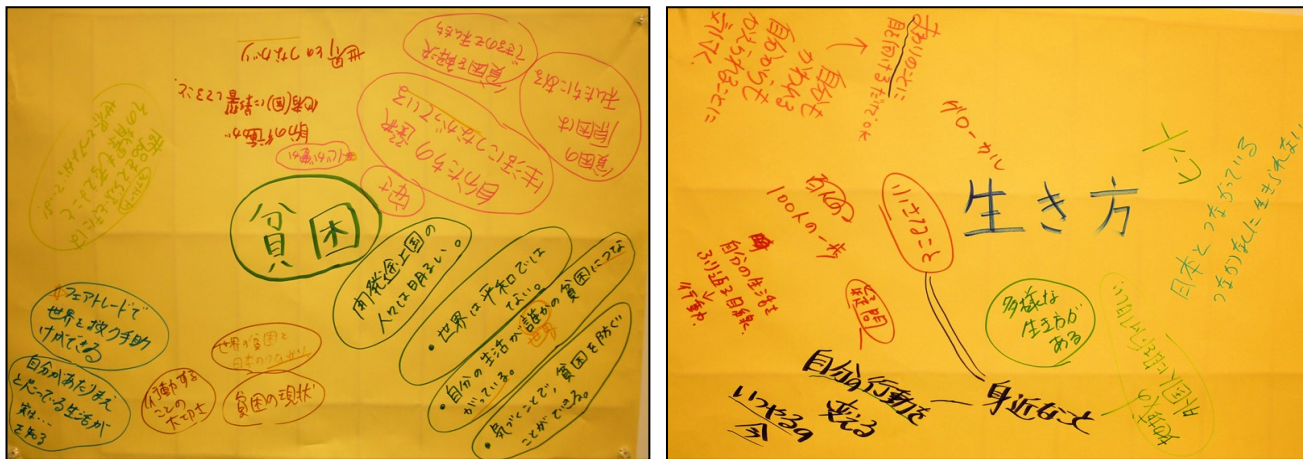
- ◇こんな実践方法があると知ってもらえた
- ◇外国、外国人を身近に感じてもらえた
- ◇仲間、理解者が増える
- ◇自分を参考にしてくれる人がいた
- ◇同僚が JICA に行った！（総合のまとめとして児童も）
- ◇間接的に学びに参加できた。
- ◇進路をきちんと考える
- ◇参加型の手法や学習に興味を持った
- ◇子どもの成長が見られる
- ◇家族を巻き込む、家族が喜ぶ
- ◇子どもが授業のことを家族に伝えた
- ◇夢が広がる
- ◇やり方がわかればどんなテーマでもできる！
- ◇行動が変わる、意識も変わる

● 成果2：テーマのねらいのブレーストーミング、作成したプログラムの例（模造紙）

テーマ：貧困

テーマ：生き方

テーマのねらいのブレーストーミング模造紙の例



作成プログラム模造紙の例

テーマ：B 貧困
 タイトル：安さのむこうに何が!?!
 ねらい：
 ・自分の生活が世界の貧困とつながっていることを知る。
 ・身近にできる国際協力を知る。
 プログラムの流れ：
 1 あいさつ
 2 アイスブレイキング
 3 「バナナを買おう！」
 4 「バナナはいくら？」
 5 「貧困の輪」
 6 「今日から私ができること」
 ポイント：
 ・私達は地球人！
 メンバー：
 やっちゃん、あーちゃん、まーちゃん、ごんごん、おんおん

テーマ D 生き方
 タイトル いつ気づくの？
 ねらい 今でしょ！
 ・世界の問題に気づき、自分の行動を振り返るきっかけにする。
 プログラム流れ
 1 あいさつ
 2 アイスブレイク ①行きたい国とその理由 ②この部屋で世界とつながっている
 3 鎖国ゲーム
 4 データで見るグローバルイシュー
 5 わたし社会を振り返る 5か条文
 6 振り返り
 ポイント 2017年ワークショップに参加すると
 1 明日の授業に使える
 2 参加型の手法が分かる
 3 自分を変えられる！